

2024(令和6)年度沖縄県若年性認知症支援推進事業
本人家族交流会 若年性認知症カフェ 報告書

若年性認知症カフェ

目的：若年性認知症カフェ内で、ご本人と介護家族の交流を深め、孤立しやすい若年性認知症のご本人と介護家族のネットワークづくりを促す。

当カフェの特性

- ・ 孤立する県内の当事者及びその支援者にピアカウンセリングの場を提供する。
参加される当事者とその家族との交流を通し、互いの不安や悩みを共有することで、安心できる居場所と仲間を作る。
- ・ 経験と技能を活かす場をめざす。交流会の場も活動の場として提供し、それぞれの活躍の場を増やすよう支援する。例：ギターや英会話などそれぞれの特技を活かした教室の開催等
- ・ カフェ内で当事者の意見を活発に頂く。施策へ反映されるよう、意見をまとめる。

1. 日時：2024年9月21日(土) : 13時～15時半

【会場】 新オレンジサポート室（宜野湾市普天間1-9-3）

2. 本日のプログラム 交流会（近況報告）

3. 参加者数 9人（内訳：当事者1名、家族8名 専門職0名）

4. 当日の様子

今月の若年性認知症カフェは近況報告から始まり、皆様の日常が垣間見えるお話しが続きました。「前院でリハビリは出来ないと言われてたけど、今の医者からはリハビリやろうねって言ってもらった」と、当事者ご主人がコロナ罹患後無事入院出来た事を、安堵の表情で語る奥様がおられました。また親の介護も増え毎日バタバタだと苦笑するご家族や、グループホームに入所する妹の元へ毎週ランチ面会に行く事が楽しいとお話しされるご家族もあり、和やかな雰囲気が進みました。或るご家族からは年末調整の扶養や障害年金・健康保険についての質問があがり、制度に詳しいご家族からの説明が初まると、皆熱心に耳を傾ける姿も見られ、経済的な制度への関心の高さが伺えました。

5. 所感

終了間際に「私、頭ではいつも悪い方にばかり考えてしまう。努力して良い方に考えるようにしているのよ」とポツリとこぼすご家族がおられました。活発に経験や介護への想いをお話しされる時間もありましたが、反面ご家族の不安や負担の重さが伝わるお言葉でした。どの当事者ご家族とも多くの悩みや課題を抱えながら日々を過ごされています。仲間とつどい悩みや不安を安心して語れるカフェの役割を改めて痛感しました。今回のスイーツはあまおうのバウンドケーキでした。



★次回予定：2024年10月19日(土) 以上